
スマブラXで逃走中！

ラリカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラXで逃走中！

【Nコード】

N4880BA

【作者名】

ラリカ

【あらすじ】

子ども作家が逃走中書くぜ！ということで一話だけでも見てくれると嬉しいです！

逃走中 ― プロローグ（前書き）

初めまして、新人作者のラリカです！小説初登校です！ってあゝ漢字間違えた。という事もあるかもしれないのでそしたら注意してもらえると嬉しいです！

逃走中 ― プロローグ

マスター「うーん」

マスターハンドは悩んでいた。

マスター「だってさーさっきファルコに『夏なんだからハードな訓練でもしたいぜ』って言われたんだもん。」

修行に反対してる訳ではない、誰が付き合うかの問題だった。

マスター「だって僕やりたくないからさ」

神なんだからそのくらいやれよと言いたい所だがいくらマスターハンドでもそれはきかなかった。

何故ならスマブラメンバーは30人以上いるのだ。

マスター「全員の相手をしてたら僕の訓練になっちゃうからさー。」

クレイジー「ただいま」

マスターハンドの弟、クレイジーハンドが帰ってきた。

マスター「お帰りクレイジー、どこ行ってたの？」

クレイジー「セブンイ○ブン行ってた。」

マスター「ふーんあっそうだちょっとお願いがあるんだけど・・・。

」

マスター「ハンドは訓練の話をクレイジーハンドに話した。

マスター「でさ、それをクレイジーにやってももらえないかなーと思
って。」

クレイジー「やだ」

即答だった。

やっぱりか・・・としょんぼりしているとクレイジーがこんなことを
言ってきた。

クレイジー「でもいい考えがあるぜ。」

マスター「えっ、なにになに？」

クレイジー「逃走中をやるんだよ!!」

マスター「逃走中ってあのテレビの？」

クレイジー「そうだ!」

マスター「・・・うん、確かにみんなでやったら面白いし訓練に
もなりそうだな。よし、やろう!」

クレイジー「よっしゃあ!」

マスター「なんでそんなに喜んでんの？」

クレイジー「俺一回逃走中やってみたかったんだ♪」

マスター「・・・悪いけどやるのはファイター達だけだよ。」

クレイジー「なんだと!?!」

マスター「まあそういう事だから、5時までにメンバー全員スマ学校の校庭に集めといて!じゃ!」

クレイジー「スマ学校なんて名前適当だな、おい。」

作者「サーセン。」

クレイジー「ん?今作者の声が聞こえたような...まあいいか。」

そんなことを思いながらもクレイジーはメンバーを呼びに行った。

逃走中 ― プロローグ (後書き)

み、短い…。

えーっとこれからもこんな グダグダ グダグダ グダグダ かもしれないけど宜しく願います！

逃走中 一 説得（前書き）

コメきたあああ！！のでハイテンションです（笑）

逃走中 ― 説得

〽本部 (作者の部屋) 〽

作者「ここが私の部屋!」

マスター「ふーん。」

作者「じゃっ、準備よろ☆」

マスター「えっ。」

作者「私ミッション考えてるから。」

マスター「……そう。」 (考えてなかったのかよ。)

数分後…。

作者 (次からラリカになります。) 「殺したっていいじゃないか♪
君が嫌う私なんて♪」

クレイジー「なあいい加減歌うのやめたら?」 (うるさいなあ)

ラリカ「モ〇イクロールの何が悪いのさ〽 (ゝーゝ) 」

マスター「そういう意味じゃないんだけど。あとさ、この部屋散らかりすぎじゃないか?」

ラリカ「何か文句でも?」 (怒) ↑片手にテニスラケット

マスター「ないです。」（汗）

ラリカ「じゃあそろそろ学校いくか！」

マスター「はいはい。」（ワープするの疲れるってのにこいつ。。。）

ラリカ「Let's go！」

マスター「なんでいきなり英語！？」

〓スマ学校 .. 校庭〓

クレイジー「おいマスター、全員連れて来たぞ〓」

ラリカ（怒）

クレイジー「あれ？ラリカ怒ってる？」

ラリカ「誰がDXメンバーも連れて来いって言ったあああ！！！」

クレイジー「ぎゃああああ！！！」

今こんな状態←

（怒） |、（ヾ ε || ε || ε || ε || ε || ε || ㄣ（.:、◇、）」

左 .. ラリカ

右…クレイジー

一時間後…。

ラリカ「まあいいや、DXメンバーにはお手伝いしてもらお。」

クレイジー「ほっ。」

マスター「みんな集まってるな。」

マリオ「つーかなんで俺たちを集めたんだよ。」

クレイジー「それはな…今からこの学校で逃走中をやるからさ！」

メンバー「ええゝめんどーい」

マスター「逃走成功したらお金ががっぼがっぼだぞ。」

お金に弱いメンバー「やる！」

ピカチュウ「でも疲れるからやんなーい。」

マスター「他の逃走者をボコボコにできるミッションもあるぞ。」

ボコボコにしたい人がいるメンバー「やる！」

やる気の無いメンバー「やりたくなーい。」

クレイジー「やっちまえラリカ！」

ラリカ「オッケー！さーくーしゃーきーげーん！！」

ワリオ「なんで俺に向かって撃つんだよ！俺逃走中やるよ！」

ラリカ「私もあんたのこと大っ嫌いだからです。」

ドゴーン！

マスター「逃走中やらないとあーなるぞ」↑ボロ雑巾になってしまったワリオを指差す

メンバー「やります！」（怖っ！）

マリオ「てか作者期限ってすげー」

ルイージ（すごいというか怖いというか。）

ラリカ「ルール説明は次回！」

メンバー「今からやるんじゃないのかよ！」

ラリカ「だって小説書くのって難しいんだよ！？」

メンバー「それ完全に逆ギレ！」

ラリカ「うるさーい！もー怒った！メタ様以外に作者期限！」

ラリカ以外「はあああ！？」

マスター＆クレイジー「待て、俺ら完全にとぼっちり！」

ラリカ「さーくーしやーきーげーん！！」

メタナイト&ラリカ以外「ぎゃあああああ……！」

「では次話でお会いしましょう！」

逃走中 ― 説得（後書き）

リンク「あのさ、ラリカってメタナイトのファンなの？」

ラリカ「あれ？言ってなかったっけ？」

ラリカ&ワリオ以外「知らなかった。」

ワリオ「へっ、あんな仮面一頭身の何処がいいのか分からねえな。」

ラリカ「しねー！！」

ドカーン！！

ワリオは星になりました☆

メタナイト「こんな感じだが次話も読んでくれ。」

メタナイト&ワリオ以外「よろしくお願いします！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4880ba/>

スマブラXで逃走中！

2012年1月13日17時59分発行